

梅田スカイビル 空中庭園

空中庭園は、梅田スカイビルの二つのタワーの地上 170m 以上に達する最上部を繋いでいます。その近未来的な建築と外観は、訪れる人に星空を楽しんでもらえるよう設計されています。

空への旅

空中庭園での体験は、梅田スカイビル 3 階の出発ゲートから始まります；この場所の壁一面には「リグ・ヴェーダ」や「ガリバー旅行記」、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」など、空に関する古典文学からの引用が散りばめられています。最初のエレベーターが止まる 35 階には、雲に覆われた「スカイウォール」が設置されています。

次に乗るチューブ型のエスカレーターは、はるか下に地上が見える鉄とガラスでできた超近代的な通路です。このエスカレーターは、レストランやバー、土産物ショップがある 39 階のスカイロビーまで、二つのタワーの間の空間を約 40m にわたって伸びています。

スカイロビーの上の 40 階は、大阪の街を 360 度見渡せる円形のギャラリーです。ギャラリー内を歩き回って好きな景色の見える方角を見つけ、椅子に座って眺望を楽しむことができます。このフロアのカフェでは、軽食や焙煎コーヒー、幅広い種類のビールを提供しています。

さらに、屋上には最高の眺望を誇るオープンエアの円形展望台「スカイ・ウォーク」があります。北には淀川とはるか向こうの山まで広がる街並みが望めます。西に見える大阪湾は夕暮れ時の景色が特に見事で、日暮れ後には大阪南部の賑やかなエリアがネオンで照らされ夜景を彩ります。

輝く未来から.....

梅田スカイビルの上層階の中心的なテーマはフューチャリズムです。40 階のギャラリーの内壁には、この建物の背後にある理念が、古代のジグuratやピラミッドから現代を経て未来に至るまでの人類の空への夢をたどるパネルで説明されています。宇宙エレベーター、軌道上居住地、そして最終的に自足型の空中都市へと続く時系列の中で、1993 年のスカイビルの完成は、全体のちょうど 3 分の 2 に当たるところに位置付けられています。

円形のオープンエア展望台は、4 台のクレーンで地上から吊り上げるという前代未聞の工法で建造されました。光り輝くガラスのパネルが並ぶこのオープンスペースは、宇宙船が飛び去った後の空間をイメージしてデザインされています。この想像上の宇宙船はどのコンセプトアート

にも描かれていませんが、宇宙船を想起させるデザインは、照明器具など、空中庭園のそこそこに見られます。

.....懐かしの過去へ

未来を想起させる空中庭園とは対照的に、梅田スカイビルの地下には懐かしい過去を偲ばせる「滝見小路」があります。このレトロな食堂街は、大阪・道頓堀エリアにある有名な裏路地「法善寺横丁」の 1920 年代の雰囲気モデルをしています。定番大阪料理の店々では、初期の三輪自動車や 1950 年代の家庭の居間を再現した実物大ジオラマなど目を引くアイテムが時代感を演出しています。さらに、トイレもタイル張りの壁に富士山の絵が描かれた昔ながらの銭湯を模したデザインになっており、昔懐かしい雰囲気を醸し出します。

梅田スカイビル周辺は、建築や都市計画に関心の高い人にとって特に興味深いエリアです。スカイビルのすぐ北東には「希望の壁」があります；植物に覆われた、全長 78m、高さ 9m のこの壁は、著名な現代建築家・安藤忠雄が設計したものです。その西側、スカイビルの北側にある「新・里山」は、在来種のみが植栽されたコンセプトガーデンで、敷地内には地元の幼稚園児や小学生が野菜や米を栽培できる小さな区画も設けられています。スカイビルの南東の「中自然の森 [the Island Garden]」は、高層建築の合間にある自然のオアシスとしての役割を果たすよう設計されており、その見どころには下から上へ流れる小さな逆流滝や滝見小路の中から見る事ができる大きめの滝などがあります。